

心の健康と精神文化の醸成の場

碧南市哲学たいけん村

無我が苑

碧南市立西端小学校長 神谷 晃



無我苑 ホームページ



碧南市哲学たいけん村「無我苑」



「安吾館」での演奏会

「哲学たいけん村無我苑」は、全国でも珍しい「哲学」をテーマにした公共施設です。

「無我愛」を説いた哲学者・伊藤証信の哲学研鑽の場「無我苑」(以下「無我苑」とする)を碧南市が譲り受けたことが契機となり、「心の健康と精神文化の醸成の場」を基本テーマに、哲学的な体験ができる、ストレス社会に対応する施設として「哲学たいけん村無我苑」(以下「無我苑」とする)が、平成4年6月に開村しました。

郷土ゆかりの哲学者 伊藤証信

伊藤証信は、明治から昭和初期にかけて「無我愛」を提唱し、仏教に限らず、キリスト教、西洋哲学など幅広い研究と思索を続けた哲学者です。関東大震災後、西端地区の青年で結成され

いています。思わず普段の喧騒を忘れてしまいそうな、心安らぐ贅沢な時間を過ごすことができます。

市民茶室「涛々庵」

碧南市が海に親しみ深いことから、波の音をイメージして、「涛々庵」と名付けられた茶室があります。涛々庵の名に因んだ欄間・唐紙の広間、草庵風の茶室の小間などがあり、美しい日本庭園に囲まれながら、お茶を楽しむことができます。

また、茶室の外待合である「二重露地(露地囲い)」は、古田織部の弟子の上田宗箇が試みたといわれる全国的にも珍しいもので、外露地と内露地に分かれています。外露地を高い塀で囲い、



市民茶室「涛々庵」



瞑想の丘



哲学の小径

た「竜灯団」に招かれ、東京から西端に移り住み、地元青年にカントの「純粹理性批判」を翻訳して教授したり、ドイツ語などを教えたりして、精神主義に基づく思想的影響を与えました。当時、西端で書かれた「哲学入門」や「無我愛の哲学」は、証信の著作物の中でも特に高い評価を受けました。

やさしい時が流れる空間「無我苑」

「無我苑」は、名称から考えると難しく感じますが、決して哲学を勉強するところでも宗教的な施設でもありません。日頃と違った環境に身を置き、様々な体験をすることで、何かを感じてもらったための施設です。何を感じるかは、訪れた人の、その時々心のありようによっても違います。来苑者アンケートには、「何年かぶりに一人で

外界と隔絶された空間を形成し、これから始まる茶会に臨むための心の準備を整える聖なる空間です。この外露地を体験することが、茶の湯を通じての哲学的体験となることを企図しています。

「瞑想の丘」から「瞑想回廊」へ

コンクリートと芝生に囲まれ、彫刻家の清野祥一氏の作品が置かれている「瞑想の丘」を登っていくと、「瞑想回廊」へとつながっていきます。この施設は、住宅街の一角に建つ近代的な建物で、施設内には、坂口安吾やニーチェなどの哲学的な言葉が記されています。そのほかにも、展示ギャラリイの様々な展示やお香の香りで心静かな

心静かに開放された気分です。とても楽になりました。」や「いろいろと心に悩むことが多い時、リラックスできる空間が気に入りました。」という感想が残されています。楽しい時、落ち込んだ時など、それぞれの状況でいろいろなことを考え、思いを馳せる、そんな場所が「無我苑」なのです。

苑内には、研修道場「安吾館」、市民茶室「涛々庵」、瞑想回廊などがあります。これらの施設は、「哲学たいけん村無我苑整備事業」の基本テーマ「心の健康と精神文化の醸成の場」に基づき、検討・整備されました。

研修道場「安吾館」

伊藤証信が地域の人々のために開いた研修道場を新たに蘇らせたもので、「無我苑」名誉村長の梅原猛先生に

時間を過ごせるメデイーションルーム(瞑想室)などもあり、日常の暮らしとは違った環境に身を置いて、自らを見つめ直すことができる施設となっています。また、前庭の池の底には、「無我苑」の屋根瓦が敷いてあり、とても不思議な雰囲気となっています。

「哲学の小径」

「無我苑」と県下最大級の自然湖沼「油ヶ淵」の湖畔にある「花しょうぶ園」、蓮如上人ゆかりの寺「応仁寺」を結ぶ総延長640mの散歩道です。歩きながら、哲学・文化・歴史・自然に触れることができ、「歩きたくなる散歩道」として整備されています。小径の各所には、哲学的な言葉や俳句を

よって「安吾館」と名付けられました。「無我苑」のある場所が坂口町なので、昭和時代の小説家、坂口安吾から引用したと言われています。施設は、木造数寄屋作りで、和室や鞘の間、入側、水屋、厨房などがあります。和室には炬が切っており、大寄せの茶会ができます。「無我苑」の事業として哲学講座等の勉強会や貸館としてお茶の稽古、演奏会などの活動の場として利用されています。

「立礼茶席」

美しい芝生の庭と、奥には竹林が見える「立礼茶席」は、椅子に座り、日本庭園を眺めながら、気軽に抹茶を楽しむことができます。来苑者からは、「茶席での応対が素晴らしく、楽しいひと時でした。」という声が届

揭示するサイン等が置かれています。

おわりに

毎日あわただしく過ぎていく時間。「ふと立ち止まり、自分を見つめ直してみたい。」そんな衝動にかられたことはありませんか。心穏やかに自分と向き合い、振り返ることが「たいけん」できる、そんな場所が碧南市の「無我苑」です。

日常の喧騒から逃れて、「無我苑」でちょっと気分転換してみてください。きっと心の安らぎを感じ、明日への活力になると思います。

善とは一言にていえば、
人格の実現である

西田幾太郎